施設サービス評価　第三者委員会報告書

県北地域福祉サービスセンター
（宮城県援護寮，地域支援センターほほえみ）
開催日：令和４年１２月１４日（水）
第三者委員：新井委員，中山委員

【報告事項】

１	宮城県援護寮　施設サービス評価（外部評価）
２	さくら事業所　施設サービス評価（自己評価）
３	なんでも相談・利用者の声報告
４	ヒヤリハット・事故報告

【助言・指摘事項】

発達障害を持つ方への支援について	これから発達障害を抱える方が多くなる。特に障害を併発している方が大変なのかと思う。単身生活者もいるかと思われるが，適切な機関へ繋ぐ支援者がいない。発達障害でひきこもりのケースは生活習慣が確立していないため，援護寮のような機関を利用してもらえると良いのかと思う。
軽度知的障害を持つ方への支援	軽度知的の方は相手を批判する傾向があるため非常に難しい。個別支援が多くなると職員が疲弊する可能性がある。ケース会議・検討をしながら支援を実施してほしい。
パーソナリティ機能障害を持つ方への支援について	パーソナリティ障害を抱える方は自分のことを正当だと思っていることが多い。エスカレートすると，色んなところに批判メールを送ったりする。担当者を変えろと言うこともある。必ずスタッフ全員で対応を共有すること。個人としてではなく，組織として対応することが望ましい。また，相談時間を決めることも必要である。
	対応に納得しない方もいるため，毅然とした対応が良かったのではないかと思う。
交通事故（自転車）について	自転車事故に関しては，これから取り締まりが強化される。毎日，高校生が補導されており，自転車は車道を走るルールであるためヘルメットの着用が必要。グループホーム，援護寮の利用者も含め，対策を講じる必要があると思う。地域生活をしている以上，ルールを守らないと近所トラブルになってしまう。
地域連携について	職員の異動があると質の向上も中々大変だと思う。日々の業務をこなすだけでも大変かと思うが，ショートステイ等で細やかな連携をしてくれて非常に助かっている。精神障害に特化した施設の特性上，積極的に地域と関わっていかなくてもよいのではないか。行政や区長との連携は今後も必要だと思う。
	地域との交流はプライバシーの問題も関わるので難しい。今できていることが立派である。

就労支援について	体験学習や職場見学をさせてくれる企業が増えてきている。利用者へ自分が入職したい企業を調べてもらうことも良いのかと思う。
グループホーム支援について	別のグループホームからさくら事業所のグループホームに移った方がいる。「ごはんも美味しいし，幸せ」と話している。身だしなみ，清潔面も向上した。 高齢になるとグループホームから移行していくことになると思うが，本人が大丈夫と言っても，スタッフから見て物忘れ等が出ているということがある。本人たちが自己決定できる間に，見学等を促して，将来を決めていただくと良い。
職員業務について	一つのことをみんなで考えるのは，新しい職員の勉強にもなる。
	日が経ってしまうと意識が薄れてしまうため，早め早めの対策が必要である。
	何かあった時には対応して改善している様子が見受けられる。利用者のために何ができるのかを考えながら疲弊しないように頑張ってほしい。
	記録が整備されている印象である。物事の詳細を記録しておくと何かあった時に求められるため，記録は非常に重要である。